
南区の活動事例



南区

ふれあい・支えあい交流事業



【明治学区】

■世帯数：5,113 世帯

■人 口：10,993 人

■面 積：0.981 k m²

平成 26 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

「ふれあい・支えあい」を学区全体の目標とし、明治コミュニティセンターや小学校にて年間を通じ様々なイベントや事業を実施。年間の延べ参加者数は約 3,000 人。

- ・独居高齢者給食会「すみれ会」
- ・子育てサロン
- ・シルバーパワー活動
- ・ネットワーク活動
- ・高齢者サロン「いりゃーせ」「さわやか」
- ・イモ植付と焼き芋大会
- ・男性サロン「グラン・パ」
- ・餅つき大会
- ・「てうちうどん」の会との交流会
- ・青パト活動をはじめとする防犯活動
- ・障がい者施設との交流
- ・コミセンニュースの発行(年4回)
- ・サンタクロースの会
- ・小学1・2年生と高齢者との交流会
- ・エコキャップ運動(小学校と合同)
- ・小学3～6年生との交流会

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示や毎月の定例会を通じて案内している。

【アピールポイント】

学区と学校が密接な関係を保持して一体となり、行事に取り組んでいる。数多くの行事が実施できている。民生関係者の並々ならぬ協力とリーダーシップ、団結力で多くの住民の参加、協力が実現できている。

2 きっかけ、背景

少子高齢化に伴い、今までは個として捉えていた各事業を面としてとらえ、学区目標とした。特に世代間交流をメインにかかげ、輪を広げ、発展させ、ふれあい・支えあい交流を通じ、住民が安心・安全・快適に過ごせるまちづくりをめざしてきた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計延べ約 500 人

(2) 運営協力

40 代・50 代の方や、PTA の方に各行事の協力者として加わっていただいているほか、行事に適した方に協力をいただいている。

4 実施のスケジュール

毎月 70 人のメンバーで定例会を開催し、提案を審議しスケジュールや役割等を決め、役員会が核となって民生関係者を中心に区政協力委員はじめ大勢の協力者に参加していただき、進めている。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

多くの学区内住民がそれぞれ行事に参加・協力し、盛り上げてくれることで、参加者の増加、住民意識の高まり、住民間の交流の深まりにつながっている。

(2) 苦労した点

活動の担い手となる方が不足しており、40 代・50 代の方や PTA からの参加を得るため、工夫を重ねている。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続と担い手の世代交代が課題である。また、今後は子どもを支援する事業の充実を図っていく。

(4) メッセージ・アドバイス

幼児・子ども・高齢者・障がい者の支援を学区全体として多くの人が関わり参加して取り組む事が大切です。

あいさつ運動

～ひろげよう！地域の見守り 挨拶の輪！～



【伝馬学区】

■世帯数：3,436 世帯

■人 口：8,301 人

■面 積：0.658 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎月「交通安全ゼロの日」に伝馬小学校および明豊中学校の校門において、あいさつ、その付近の交差点において交通監視を行う。
- ・ 年間 18 日（平成 24 年度）実施し、1 日当りの参加人数は約 15 人である（年間延べ参加者数は約 270 人）。各種団体、各公民会より 2 人以上ずつ参加協力をお願いしている。

【住民への PR 方法】

年度始めに実施当番表を作成し、参加者に周知している。

【アピールポイント】

公民会役員全員が参加できる。

2 きっかけ、背景

社会へ出てからもあいさつは基本であるが、あいさつのできない子どもが増えてきた。子どもと大人のふれあいや対話する機会も少なくなってきたため、あいさつ運動を小中学校の校門にて始めることとした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、保護司会、コミセン管理者など公民会全役員 計 52 人

(2) 他団体との協力

伝馬小学校、明豊中学校および両校の PTA

4 実施のスケジュール

活動期間：平成 24 年 4 月～25 年 2 月
毎月交通事故ゼロの日 朝 8:00～8:30
(休校日は実施せず)



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加している。
- ・子ども達のあいさつがよくなるようになった。
- ・大人が見ているため、中学生の遅刻が少なくなった。
- ・大人同士の交流が深まり、責任感も高まった。

(2) 苦労した点

- ・当初、進んで出てくる人が少なかったが、最近は活動も定着し、参加者が増加している。

(3) 今後の課題・展望

- ・今後も継続して実施する。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・他の学区でも実施しているかも知れないが、実施する内容が簡単でありながら効果が大い。
- ・未実施の学区で実施すると良いと思う。



生活安全パトロール



【豊田学区】

■世帯数：3,553 世帯

■人 口：8,668 人

■面 積：1.189k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎月 1 回、公民会役員、各種団体の協力を得て、学区内をパトロールしている。
- ・ 年間の延べ参加者数は約 420 人。

【住民への PR 方法】

学区公民会会議及び防犯青パトで巡回

2 きっかけ、背景

学区住民の交流を深め、子どもたちやお年寄りをはじめ学区住民が犯罪に遭うことを防ぐとともに、住民の防犯意識を啓発するため、月に 1 回の学区内のパトロールを公民会役員と各種団体に協力して行うこととした。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、老人クラブ 計約 40 人

4 実施のスケジュール

毎月 1 回、夕方に実施
防犯協力の青パトも同時に学区内を巡回する。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流が深まることにより、犯罪の防止につながっている。

(2) 苦労した点

参加者の確保に苦労しており、活動を継続する事が困難になってきている。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続のためには、特定の人に負担が片寄らず、広く一般の人の協力も得ることが大切です。



にっぽんど真ん中祭り どえりゃ〜どうとくパレード会場



【道德学区】

■世帯数：4,012 世帯

■人 口：9,191 人

■面 積：1.035 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎年 8 月末に名古屋市を中心に行われる祭り・コンテスト「にっぽんど真ん中祭り」の会場の 1 つとして、「どえりゃ〜どうとくパレード会場」を提供している。
- ・ 道德一丁目～三丁目（道德通り、道德公園、商店街）を交通規制して会場とし、開催 1 日間の観客動員数は約 9,000 人にのぼる。
- ・ 参加チームの受け入れ準備体制づくり・運営・警備・救護対策などを行う。事前準備は案内看板（交通表示）の設置、のぼり看板・ポスター・たれ幕の設置および T シャツの購入、駐車場・駐輪場の確保など。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、垂れ幕・看板事前設置

【アピールポイント】

学区連絡協議会のメンバーが全員参加している。
 商店街のみなさんの協力を得て開催している。
 安全を確保して踊り子さんの演舞を支援している。

2 きっかけ、背景

住民のみなさんの協力を得て、大規模なイベントの 1 会場を担う事により、学区コミュニティのレベルアップと学区のリーダーの育成を図った。また、チー

ム・踊り子さんが気持ちよく演舞できるよう、来場者の方を含めてあたたかくおもてなしをしている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、財団法人にっぽんど真ん中祭り文化財団 約 250 人

(2) 他団体との協力

近隣商店を含め、100 店以上の協力がある。

(3) 運営協力

学区運営連絡協議会全員の役割分担をスムーズに行っている。

4 実施のスケジュール

毎年3月 ガイダンス



4月 開催日時決定



5月 参加チームエントリー開始



6月 ポスター・スケジュールの完成
オリエンテーション開催



7月 ポスター配布



8月 祭り開催（前夜祭・本祭・報告）

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 盛夏の中、参加する踊り子、チームに対し、熱中症対策を重点にして飲み物の提供、救護対策などに万全の体制で受け入れることで参加者も増加しているほか、住民意識も高まり、住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

- ・ 水道・用地・テントなどの各設備の借用に住民の理解を得ることに苦労している。
- ・ 給水所などの安全対策。

(3) 今後の課題・展望

- ・ ボランティア意識の高揚を図り、活動を継続する。
- ・ 協賛金を募り、活動資金の確保に努める。
- ・ 担い手の世代交代や他団体とも協力していきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 周辺環境の確認（利便性・安全性・踊りやすさ）



敬老会



【大磯学区】

■世帯数：2,539 世帯

■人 口：6,020 人

■面 積：0.859 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 南文化小劇場を会場に、70 歳以上の高齢者を対象に毎年 9 月に敬老会を開催している。参加者数は約 450 人。
- ・ 式典の後、和太鼓や舞踊・歌謡といった演芸で高齢者をもてなし、世代間の交流を図るとともに集まった方たちの横のつながりを深める。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧

【アピールポイント】

演芸の中でも最初の和太鼓は毎年大好評である。最後の少年団の介添えによるビンゴゲームは高齢者と子どもが仲良く楽しむ。プログラム作成には苦労するが、内容は喜んでもらっている。

2 きっかけ、背景

70 歳以上の高齢者が一堂に集まり、セレモニーの後で演芸鑑賞を通して世代間の交流とふれあいを深める事を重視して開催する。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、PTA、子ども会、老人クラブ、防犯協会、交通少年団 計約 40 人

(2) 他団体との協力

小学校 PTA、子ども会、交通少年団

(3) 運営協力

各町内の町内会長が前任者から引き継ぎ、自分の分担の責任を果たしている。

4 実施のスケジュール

H23 年 敬老会実施要領についての会議
7 月 (三役、常任委員 計 9 人にて)

8 月 定例会で決定 招待者の調査、
名簿作成
招待状、プログラムの作成

9 月 敬老会開催

10 月 敬老会の決算報告、監査報告、
承認

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加している。
- ・ビンゴゲームを通じて高齢者と介添え役の交通少年団の子どもたちとの一体感が良かった。

(2) 苦労した点

- ・プログラムの作成において、内容や順番などに神経を使った。

(3) 今後の課題・展望

- ・市からの助成金の増加が可能ならば、活動資金の確保ができる。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・敬老会を実施している学区は 1 人でも多くの人を誘いあって、当日に会場に連れてくると良い。



桜学区・春日野学区 緑のまちづくり会による桜植樹



【桜学区】

■世帯数：2,836 世帯

■人 口：6,518 人

■面 積：0.701 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 鯛取通の桜並木復活を目指して、桜学区と春日野学区の「緑のまちづくり会」が、南土木事務所と連携して古い桜の木とナンキンハゼから、新しい桜の木への植替えを進めている。延べ参加者数は約 100 人。
- ・ 月 1 回、第 1 土曜日に樹木周辺の清掃、除草、枝打ちを行う。「桜守」として桜の手入れなどを行うボランティアを募集している。
- ・ 緑樹、結婚記念等の記念樹を住民から募集し、名前と記念名を打ち込んだプレートを付けた桜を植樹する取り組みを行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、口コミ、学区定例会での募集活動

【アピールポイント】

桜並木を復活させたいという地域住民有志の善意と熱意により活動し、学区内にとどまらず隣接学区住民との親睦に貢献している。

学区の各公民会長、消防団、女性会、子ども会等、地域の団体・個人の賛同を得るとともに、ボランティア・寄付・募金等を行い、活動を自立させている。

2 きっかけ、背景

以前は咲き誇っていた鯛取通の桜並木が老朽化により、花が少なくさびしくなったため、町名の由来でもある桜を復活させたいと考えた。地域を美しく元気にさせたい、そして市の計画を待っているだけでは時間がかかる、自分たちで復活できないかとの思いで活動をはじめた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

緑のまちづくり会(会員約 80 人)が主体となり実施。区政協力委員、消防団員、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ

(2) 他団体との協力

桜学区、春日野学区連絡協議会の各種団体、消防団、南土木事務所

(3) 運営協力

地域の店舗での募金や記念樹の植樹活動

4 実施のスケジュール

H24 年 会員・協賛団体による桜の植樹
2月 祭(笠寺公園)

毎月第1 会員・協賛団体による樹木周辺
土曜日 の清掃、雑草取り、枝打ち作業

随時 付近の住民による樹木周辺の
清掃

H24 年 会員・協賛する有志によるお花
4月 見会

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・地域の文化・誇りが継承できた。
- ・桜並木が復活し街並が美しくなった。
- ・両学区の住民が親睦を深める事ができた。

(2) 苦労した点

- ・事業初期の参加者と活動資金の確保に苦労した。
- ・落ち葉の問題で付近の住民の理解を得ることに苦労した。
- ・若い人の参加が少ない。

(3) 今後の課題・展望

- ・現在中心となっている世代の後の世代への継続と記念樹植樹による活動資金の調達が課題。



防災対策



【菊住学区】

■世帯数：3,736 世帯

■人 口：8,575 人

■面 積：0.745k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

様々な防災対策を実施。延べ参加者数は約 410 人。

- ・ 町内ごとに防災マップを作成し、要援護者・支援者を特定し、その居住地をマップに記載する。
- ・ 木造住宅の居住者に名古屋市無料耐震診断を受けることを勧める。
- ・ 菊住コミュニティセンターにおいて家具の転倒・ガラスの飛散防止対策実践講習会を行うほか、独居高齢者および高齢者世帯を中心に、町内有志により実施する。
- ・ 津波避難ビルへの避難訓練を実施する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、該当者を直接訪問

2 きっかけ、背景

菊住学区は天白川・山崎川の両方に接しており、東海集中豪雨時の経験や、災害予測の情報から、学区住民は豪雨・地震・津波に対する防災対策が急務であるという認識が高く、地域全体での防災対策をはじめることとなった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、消防団員、少年補導委員、コミュニティセンター館員 計約 70 人

(2) 他団体との協力

地域内商業施設

(3) 運営協力

町内会長を中心に、消防団、民生委員等の協力を得ている。

4 実施のスケジュール

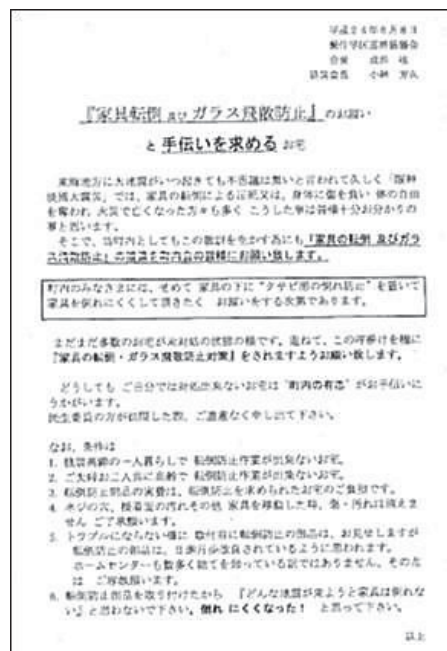
H22 年 10 月 学区全世帯を対象に「防災アンケート」を実施
防災マップの作成（町内ごと）
要援護者・支援者の特定（町内ごと）

12 月～
H23 年中 木造住宅名古屋市無料耐震診断おすすめ

H23 年 9 月 「災害ボランティアネットワーク」会員等を講師に家具の転倒、ガラスの飛散防止対策講習会の開催

H24 年 6 月～ 家具の転倒、ガラスの飛散防止対策実施

H24 年 7 月 要援護者・支援名簿の再登録を呼び掛け



5 成果と課題

(1) 成果・効果

防災対策についての住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

木造住宅耐震診断、家具の転倒防止対策等は住民の理解を得るのに苦労した。
民生委員の協力は大きかった。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代と他団体との協力を進め、活動を継続する。

春日野学区コミセン祭り



【春日野学区】

■世帯数：3,660 世帯

■人 口：8,305 人

■面 積：0.803 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 春日野コミュニティセンターを会場に、「春日野学区コミセン祭り」を開館 28 年目となる平成 23 年度より開催。延べ参加者数は 200 人以上。
- ・ コミュニティセンターを利用して練習をしているグループなどの発表の場として、その練習の成果を家族や友人へ披露してもらう。舞踊、健康体操、フラダンスなどのステージと、書や生け花、絵画などの展示を行う。
- ・ 利用者同士のコミュニケーションを活性化する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

平成 23 年度は第 1 回目の開催で不安もあったが、多くの方に来ていただき、大盛況で、会場に人が入りきれなくて少し迷惑をかけるほどであった。

2 きっかけ、背景

コミュニティセンターを利用している人やグループの発表の場として、開催することとなった。コミュニティセンターの利用者だけでなく、学区住民や各種団体にとっても念願の開催となった。コミュニティセンターの利用を拡大するためのアピールの場、住民間や世代間のふれあい、交流の促進の場としても期待されている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、女性団体・女性会
計約 15 人

(2) 他団体との協力

コミュニティセンターを利用する
団体、女性部

(3) 運営協力

コミュニティセンター利用者に備
品・運営の協力をしていただいた。

4 実施のスケジュール

H23 年 実施に向け、計画策定と意見聴取を
4 月 実施



6 月 諸課題を洗い出し解決を図る。



7 月
・名称を「コミセン祭り」と決定し、準備開始
・事務局会議を中心に参加メンバーの洗い出しと打合せ
・参加者に概要説明と要望を聞く。



8 月 全体を審議し、発表順番、準備内容を決定（ポスター、チラシ作成配布）



10 月 「コミセン祭り」開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・当初の計画より多くの方に来ていただき、交流の場づくりができた。
- ・子どもも見学に来て、世代間の交流につながった。

(2) 苦労した点

- ・はじめてのことで手探り状態でのスタートであり、参加者・会場づくりなど全てに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続のために、子どもや若者にも楽しんでもらえるイベントにしていきたい。
- ・屋外イベントなども必要である。



防犯診断



【笠寺学区】

■世帯数：5,250 世帯

■人 口：12,190 人

■面 積：1.868 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 町民及び学区防犯委員が南警察署の協力の下、家屋の防犯診断を行う。
- ・ 地域のどのようなところに防犯上の問題があるのかを点検し、その改善策を話し合い、解決を図る。笠寺学区内 24 町内を順に行っている。平成 24 年度は松城町一帯を対象とし、約 20 人が参加した。

【住民への PR 方法】

組長を通じて連絡し、周知、参加者の募集を図る。

【アピールポイント】

毎年、対象地域を選び実施。平成 24 年で 15 年ほど継続している。

2 きっかけ、背景

笠寺学区は、南区内でも空き巣狙いや居抜きなどの犯罪発生件数が最も多く、今後の発生を防止するとともに、住民の防犯意識の向上、情報共有のため、防犯診断を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長 計約 20 人

(2) 運営協力

南警察署

4 実施のスケジュール

H24 年 3 月 実施対象地域決定



4 月 南警察署及び対象地域との打合せ



5 月 対象地域への周知



7 月 防犯診断実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 防犯診断を通じて、住民の防犯意識を高めることにつながった。
- ・ 住民間の交流が深まった。

(2) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続と担い手の世代交代が課題。



ぬくもりの感じられるまちづくり



【星崎学区】

■世帯数：2,438 世帯

■人 口：5,914 人

■面 積：1,993 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 星崎小学校校庭を会場に「ペタンク大会とふれあいの集い」を開催。子どもから高齢者まで学区の輪を広げる場として参加を呼びかけ、延べ参加者数は約 250 人。
- ・ 屋外でペタンク大会を実施、(雨天時は体育館でのクロリティー大会に変更)。障がい者を含め、年齢層も幅広く参加者を募集する。
- ・ 競技に参加しない人の交流の場としても楽しんでもらえるよう、抹茶のサービスや高齢者疑似体験コーナーで、子どもが疑似装具を付けてのカルタ取りの実施などを行う。
- ・ 学区内の福祉施設で作っているクッキーを購入し、会場にてふるまう。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、学区定例会での PR 実施

【アピールポイント】

子どもからお年寄りまで、学区の輪を広げる仕組みの維持。障がい者支援の一助としている。

2 きっかけ、背景

毎年 3 月を地域福祉推進の月と定め、子どもから高齢者に至る幅広い層の「ふれあいの場」を設けようと事業を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

民生委員児童委員 約 10 人

(2) 他団体との協力

学区内の福祉施設 ゆたか福祉会

4 実施のスケジュール

H24 年 1 月 メンバー会合、役割分担の確認など

2 月 学区定例会での PR

3 月 ペタンク大会の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民間の交流が深まった。
- ・ 高齢者疑似体験コーナーでは子ども達が疑似装具をつけてカルタ取り等を実施し、高齢者とのコミュニケーションのとり方を体験的に学べた。

(2) 苦労した点

- ・ 住民の理解を得ること。
- ・ 障がい者チームについて同一町内のチームと対戦するように組み合わせし、子ども会のチームには投げ方のコツを指導した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 高齢者の参加が多く、傷害保険に加入する必要がある。
- ・ 雨天時のクロリティー競技用具の調達予算が必要である。



災害につよい支え合いの活動



【笠東学区】

■世帯数：3,033 世帯

■人 口：7,287 人

■面 積：0.739k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 将来予想される巨大地震・津波被害に備え、学区全体で避難訓練を実施した。参加者は約 490 人。
- ・ 津波避難指定ビルは「笠東小学校」だが、避難場所を「見晴台（笠寺公園）」に設定した。参加者各自が、自宅から避難場所までの時間・経路に潜む危険などを確認しながら集結した。
- ・ 訓練を前に、民生委員と各町公民会長が高齢者宅を訪問し、聞き取り調査による「防災調査票」を作成した。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧

2 きっかけ、背景

高齢化が進み、災害時に自力では避難できない世帯が増えてきた。住民からの情報もなかなか集まりにくい（町内会未加入世帯）ので、防災訓練と事前の聞き取り調査を行うことにより、情報共有、防災意識の啓発、高齢者世帯への支援を行う事とした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

各町内の自主防災会会長、各種団体長など 計約 25 人

(2) 他団体との協力

笠東ボランティアネット

(3) 運営協力

町内毎に新たにリーダーを指名して主体的なつながりを作っている。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・住民間の交流が深まった。
- ・問題点、課題対応の確認ができた。

(2) 今後の課題・展望

- ・防災意識をさらに高める重要性（訓練を重ねる）。
- ・家庭・地域との連携が大切、協力を図る。
- ・要援護者（傷病者・独居高齢者）への支援方法。
- ・町内会の未加入世帯の取組方法。

4 実施のスケジュール

H24 年 新役員による組織作り、新計画と勉強会
4 月



5 月 民生委員と各公民会長による高齢者宅の訪問、聞き取り調査



5～6 各町内別自主防災訓練の実施
月 小学校屋上避難ビルの指定で学区役員で避難訓練
津波避難訓練のチラシ回覧



7 月 津波避難訓練の実施



8 月 防災調査票の作成、確認、反省会の実施



H25 年 各部署からの要望、改善、懇親会の開催
3 月

安心・安全で住みよい町・宝 (事故・犯罪のない明るい町づくりをめざして)



【宝学区】

■世帯数：4,015 世帯

■人 口：8,174 人

■面 積：0.891 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

ボランティア団体「コミュニティ・ネット・宝（コミネット宝）」を活動母体とし、1つの活動ではなく、今、住民が何を必要としているか、何が重要であるかを見きわめ、それに対応した内容の講習会を開き、住民が情報を共有し意識を高め連帯感を強めるよう進めている。

【住民へのPR方法】

コミネット宝（活動母体）隊員向けの広報紙・生活安全パトロールを通じ、啓発運動・公民会へのチラシ回覧

【アピールポイント】

活動をこまめにすることで意識が少しずつ高まってきているようである。住民同士の“顔を知る”“あいさつをする”“明るくなる”といった効果が表れてきている。

2 きっかけ、背景

活動のきっかけは宝小学校のPTAによる「不審者」から児童を守る「ワンワンお散歩パトロール（平成17年立ち上げ）」である。平成19年より子どもだけでなく防犯・防災・健康など地域の安全意識を高める運動、活動をする「コミネット宝」へ移行した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

コミネット宝事務局メンバーの3人が主体となり、活動内容を決める。

(2) 他団体との協力

学区協議会、宝小学校 PTA、宝小学校、防犯委員、保健所、警察署、区役所、母親交通教室

(3) 運営協力

宝小学校、保健所、区役所、警察署、学区協議会、宝小学校 PTA、母親交通教室

4 実施のスケジュール

毎年度末 ～年度始め	次年度の活動内容の骨組みを考える（講習、広報紙、パトロールなど）
---------------	----------------------------------

4月・5月頃	区役所、保健所、警察署等に情報収集 開催時期・内容の決定 それぞれの開催日に合わせて広報誌、回覧等で参加者の募集を行う 話題になっていることを瞬時に取り入れることができるため、その他予定外の行事もあり
--------	---



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・あいさつに始まり、互いに交流がはじまる。
- ・参加者が増加している。
- ・情報の共有により意識の高まりにつながっている。

(2) 苦労した点

- ・協力団体は多くなったが、活動内容を選ぶときに、今、何が必要とされ、重要とされているかを見きわめ、選択するのに苦労している。

(3) 今後の課題・展望

- ・いつまで続けられるかの不安はあるが、次世代を育て、活動を継続させていく。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・“声かけ”“呼びかけ”“何かに参加したい、何かを行いたい”という人は多くいるように思う。まずは声かけを！

学区の花いっぱい運動(ミヤコワスレ)



【宝南学区】

■世帯数：3,880 世帯

■人 □：8,622 人

■面 積：0.784 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 水袋公園の放置されていた花壇の草取りを行い、学区のカラーと同じ紫色のミヤコワスレを植栽した。延べ参加者数は約 150 人。
- ・ 植栽後は毎日水をやり、日よけを設置するなど継続して手入れをし、苗を町内会や住民に配布するなど、地域の交流につながっている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

植栽後、工事のため2年間花壇の周りをおおわれてしまい失敗したが、平成 24 年に初めて花が咲き、住民の方から「当番の人たちの努力でやっと咲いたね」と声をかけられるようになった。「草を取っておいたよ」などと声をかけてくれるようになり、住民の方との交流が深まった。

2 きっかけ、背景

区政 100 周年「南区をきれいに」運動に参加することになり、水袋公園への植栽を行うこととなった。花を選ぶにあたり、宝南学区のカラーが紫色なので、紫色のかわいい花の「ミヤコワスレ」に決定した。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、保健委員、女性団体・女性会、花の好きな人 計約 15 人

4 実施のスケジュール

H21 年
3月 水袋公園にミヤコワスレを植栽



5月 押し芽実習



H23 年
3月 水袋公園にミヤコワスレを植栽



7月 花壇全体に日除けを設置



H24 年
3月 ミヤコワスレの苗を町内会や住民に
配布



7月 台風でも倒れないよう、畝ごとの日
除け設置



5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民の意識も高まり、「草をとっておいたよ」などと声をかけてくれるようになり、住民の方との交流が深まった。

(2) 苦労した点

花壇を耕してみたら瓦礫などが多く含まれていたため、取り除き土を入れたが、雨が降るとまた石や瓦礫が上に出て来ていまだに苦労している。日除けについても試行錯誤している。

(3) 今後の課題・展望

活動資金が確保できれば、土を入れ替えて水はけを良くしたい。

魚のつかみ取り大会



【白水区】

■世帯数：2,794 世帯

■人 口：6,056 人

■面 積：1.105 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 夏休みに白水小学校北側の大同排水路「せせらぎ川」を利用して、「魚のつかみ取り大会」を開催。参加者数は約 800 人。
- ・ 南土木事務所に依頼して、事前に川の清掃を行う。
- ・ 大会開催日は午前 6 時から役員と子ども会が参加して、川底の清掃を行い、うなぎ 100 匹、金魚 2,600 匹、錦鯉 600 匹を放流して、魚のつかみ取り大会を開催する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示。学区定例会議・子ども会の会議で周知を徹底する。

【アピールポイント】

大会の開催により学区内の子ども・父兄・学区外の孫等、多くの関係者が集まり、参加者全員が楽しみ、喜んで帰ることは開催学区冥利につきる。

2 きっかけ、背景

「青少年育成」をテーマにして開催している。平成 24 年で 28 回目の開催と継続しており、伝統ある行事となっている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性部、子ども会、老人クラブ、体育委員、母親交通教室 計約 75 人

(2) 他団体との協力

南土木事務所に清掃を依頼、大同特殊鋼星崎工場に導水を依頼している。

4 実施のスケジュール

6月8日 定例会議に開催案を提示



7月上旬 来賓に案内状送付
魚購入業者と打合せ
企業に川の「導水」を依頼



7月中旬 南土木事務所に川の清掃を依頼



7月22日 大会開催当日 朝6時から
川の再清掃
10時から大会開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加し、住民意識も高まっている。
- ・住民間、子どもと父兄間の交流の深まりにつながっている。

(2) 苦労した点

- ・放流する魚の選定に苦労している。近年ではうなぎの品不足による値上げの影響を受けている。

(3) メッセージ・アドバイス

- ・学区内に川のあるところは、一度見学していただけるとよい。



第40回柴田学区交通安全パレード



【柴田学区】

■世帯数：2,162 世帯

■人 □：4,431 人

■面積：1.020km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・地域住民の交通事故防止を目的として子どもから高齢者まで幅広い層の住民 400～500 人の参加者が学区内の幹線道路を、交通安全を呼びかけながらパレードする。
- ・学区を南北にわけ、一年おきにそれぞれ約 2km の行程を 1 時間半ほどかけて行進する。
- ・パレードは、「小学生（鼓笛隊と家族）」→「チビッコ警察と家族」→「交通安全少年団と家族」→「老人会」→「各町内住民」→「大学生」の順にし、行進のスピードが遅れないように工夫した。
- ・パレードの写真撮影は 2ヶ所の安全な所だけとしている。
- ・グループごとに参加者氏名を記入することで、参加人員数の重複や不足を防止し、飲み物・記念品などの購入の無駄を削減した。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布。実行委員がマニュアルに沿って各町内ごとに参加者個人の名を記入して募集する。

【アピールポイント】

平成 24 年度で第 40 回と、永年継続された活動でありながら、毎年 400～500 人の参加者が途中事故も無くパレードを成功させている。

2 きっかけ、背景

交通事故の発生を抑止するとともに、地域住民の交通安全意識の高揚を図るため、小学生から高齢者まで広い年齢層の学区民上げての、交通安全パレードを約 40 年継続して行っている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 50 人

(2) 他団体との協力

平成 22 年度より大同大学吹奏楽部約 20 人も参加

(3) 運営協力

平成 22 年度まで学区の交通安全部長が計画から実施まで進めていたが、運営方法をマニュアル化し、新年度に新人の実行委員でも5月中旬の実施をスムーズにできるようにした。

4 実施のスケジュール

毎年4月10日 学区定例会議にて開催日程とスケジュールを報告

～4月末 各町内会、各部の参加者を募集

～5月10日 パレードの隊列の並びを決定

～5月15日 飲み物、記念品の手配（隊列の各部、町内ごとに人数分を分ける）

5月20日前後の日曜日 交通安全パレード 実施



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加し、住民の交通安全意識も高まっている。
- ・新一年生の子ども達がチビッコ警察官の制服を着て交通安全指導を受けたり、パトカーや白バイに乗って撮影したりして楽しい一日となった。

(2) 苦労した点

- ・転出世帯の増加や高齢化により参加者の顔ぶれが毎年同じになりつつある。
- ・幹線道路を横断するとき、一時的に信号機を停止して一般車両（仕事中的トラックなど）に迷惑をかけているが安全第一とする。

(3) 今後の課題・展望

- ・担い手の世代交代や他団体との協力を進め、活動を継続する。学区で開催する他の行事においてもマニュアル化を進め、無駄をなくした取組みとしたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・隊列前部はまとまりが良いが後部になると列が乱れる傾向にある。